



羽島市で見つけた 地域のお宝

地域には、自然発生的な人と人とのつながりや支え合いが存在しています。

羽島市社会福祉協議会では、これを「地域のお宝」と呼んでいます。

このお宝が持つ意味を考え、今のつながり続けることの大切さを意識することで、

地域の支え合いに位置づけることができます。

羽島市社会福祉協議会では、令和2年度から地域のお宝を探し、

広報紙「社協はしま」で紹介してきました。

この冊子は、これまで紹介してきた地域のお宝をまとめたものです。

いつまでも住み慣れた地域で、元気に安心して暮らすヒントになれば幸いです。

2020.5

足近町

足近生き生きラジオ体操クラブ

足近小学校のグラウンドでラジオ体操をやっていると教えていただき、取材に伺いました。

6時30分頃から人が集まり、みんなが集まった頃、体操が始まります。ラジオ体操第一・二を行い、解散です。雨の日と土日はお休みで、休みの連絡をする必要はなく、気軽に参加できます。

発起人の武山さんが「健康のために始めた」とお話しされるこの活動は、今月で5年目になります。



生活支援コーディネーター

天気も良く、桜の木の下で行う体操は、とても気持ちがよかったです。自身の健康づくりだけでなく、「まだ〇〇さん来ていないね」といった声が聞こえ、自然に気にかけて合う関係があると感じました。

また、「おしゃべりが楽しいから行く」とお話しされる方もいらっしやり、帰る方向が同じ人同士、おしゃべりをしながら帰られる様子から、きっと情報交換の場にもなり、この時間が楽しいんだろうなと思いました。

2020.11

桑原町

八神地区

旧オバタ衣料で卓球



ラケットなども準備してあるため、気軽に参加できます。

毎週月曜日、16時～18時まで卓球をしています。

1年程前から、「認知症予防になるかな？」との思いから、所有者の小畑さんの働きかけで始まりました。

取材に伺った日は、感染予防対策もし、「よいしょ」「ほらよっと」などと元気に声を掛け合いながらラリーをしていました。疲れた時は、一人ひとりのタイミングで休憩をします。休憩中は、他の方を応援したり、おしゃべりをしたりしていました。

参加されている方は、「楽しいよ。おしゃべりもできるし。こういうことをやっとならで仲良くなれる」「こういう場所が家の近くにあると嬉しい」と話してくれました。



生活支援
コーディネーター

参加者は口コミで集まったそうです。人と人とのつながりがあるからこそ、一声かければ、人が集まるのだと思いました。また、月曜日の16時に行けば、仲間に会える場所があることが羨ましく感じました。

健康づくりはもちろんですが、仲間づくりや情報交換の場、また、「今日来る？」と電話をかけている姿を見て、見守りにもつながっていると感じ、とても素敵な集まりだと思いました。

2021.1

小熊町
東小熊地区

井戸端会議

東小熊地区にお住まいの方が参加できる集いの場です。活動が始まり10年以上になります。毎月第4金曜日の13:30から始まり、おしゃべりをしたり、健康体操や季節に合った物づくりなどをしたりして過ごしています。



取材に伺った日は、講師による健康体操を行いました。椅子に座ったまま、東京五輪音頭や人生いろいろなどの歌に合わせて体を動かし、肩のまわりなどがほぐれ温まりました。体操の合間には、思い出話や家族の話、おすそ分けでもらった野菜で料理をした話などで盛り上がりました。

参加されている方は、「楽しいよ。うちにおったら、テレビ見とるだけやでね」などと話してくれました。



生活支援コーディネーター

「井戸端会議」という名前は、「昔のように集まっておしゃべりができるといいな〜」との思いから、代表の河出さんが名付けたものです。

毎回、8人程の参加があるそうです。みなさんの会話を聞いていると、「今日は、〇〇ちゃん来んのかね?」「来ると思うけど、娘さん来とったで」といった話もされていました。見守りもできていて、素敵なお集いの場です。

2021.3

コロナ禍でも変わらないつながりを発見!



社会福祉委員さん

家ばかりにも閉じこもつれんで、毎日、畑に行っとる。作った野菜は食べきれんで、ご近所の方におすそわけしているよ。

この前は、ご近所の方にゆずをいただいたから、ジャムを作つて、おすそわけもしたよ。



ボランティアさん

畑には行っているよ。運動不足になっているから、歩いて行っているの。畑に行くと、顔見知りの方が出てきてくれて、おしゃべりをするのよ。ちゃんとマスクして、あいだをあけてね。



生活支援
コーディネーター

畑仕事の合間のおしゃべりやおすそわけなどは、普段の生活の中に変わらずに残っていると感じました。そして、「ご近所の方も元気に過ごしているよ」などといったことも聞き、つながりの中で自然に見守りができていると思いました。電話でお話をしましたが、みなさん楽しそうにお話してくださり、お元気な声を聞くことができうれしかったです。

2021.5

桑原町

登下校の見守り隊

発起人である速水さんと、同じ桑原町にお住まいの方が、交差点や通学路、自宅前などに立ったり、軽トラックで巡回したりして、桑原学園に通う児童生徒の登下校の見守りをしています。

これは、小学生の子が「知らない人に声をかけられて怖かった。おじちゃん守ってね」と話してくれたことが活動を考えるきっかけとなりました。学校に見守り活動を提案したところ、快く協力してくださり、今年で3年目を迎えます。

子どもたちは、挨拶はもちろん、学校や家庭であったことを話してくれます。また、見守るだけでなく、隊員同士で子どもの様子を報告し合い、体調が良くない子どもを見つけた時は、速やかに学校に連絡を取ることもあるそうです。



▲昨年度6年生の子どもたちから、手作りの旗のプレゼント

地域の方にも見守られるのは、安心ですね。

ボランティアの方は、「挨拶をしてくれると元気が出る」とうれしそうにお話しされました。



生活支援
コーディネーター

2021.7

竹鼻町

コスモパーク羽島でラジオ体操

364日（元旦以外）、体操を行っています。

6時30分から、ラジオ放送に合わせてラジオ体操をし、その後、気功の一種である十八練功などを行い、7時頃に終わります。

発起人である黒田さんは、「ひとりでラジオ体操を続けるのは難しいと思い、知人に声をかけて2人で始めた」とお話しされるこの取り組みは、今年で10年目に入ります。□□ミで参加人数は増え、毎回15名程の参加があります。

参加されている方は、「これがあるから元気でいられる」「病気がちで、最初は時々しか参加できなかったけど、今は毎日のように参加できるようになった」と笑顔でお話してくださいました。



自身の健康づくりはもちろんですが、おしゃべりをしたり、メンバーの岩田さんから、参加のお駄賃として飴をいただいたり、散歩中の犬とふれあったりする、この時間がきっと楽しかったり、継続して参加する源になったりしているんだろうなと思いました。

また、「まだ〇〇さん来ていないね」「気をつけて帰ってね」などといった声が聞こえ、気かけ合う関係があり、とても素敵な取り組みだと思いました。



生活支援
コーディネーター

2021.9

小熊町

麻雀を楽しむ会

小熊コミュニティセンターにて、毎月2回、9時～12時まで健康麻雀を行っています。

小熊コミュニティセンターで行われた健康麻雀の講習会に参加された方が中心となり、5年程前に「麻雀を楽しむ会（旧：健康麻雀サークル）」を立ち上げました。

取材に伺った日は6名の参加がありました。感染予防対策をし、みなさん真剣に、時には、おしゃべりをして笑ったりしながら楽しく麻雀をしていました。

参加されている方から、「指先の運動になるし、頭も使うから老化防止になる」「毎月2回の麻雀が楽しみ。ここに来れば、おしゃべりもできる」などといったお話を聞くことができました。麻雀がない日は、LINEでもつながっているそうです。



生活支援
コーディネーター

講習会から継続して参加されている方が多く、楽しく麻雀をされています。この「楽しい」という気持ちが継続するコツになっていると思いました。健康の秘訣は「きょういく・きょうよう」と言われています（今日行くところがある・今日用事がある）。毎月2回の麻雀は、まさに健康づくりにつながっています。

また、おしゃべりをする中で、情報交換もできたり、お互いの体調などを確認し、気にかけて合うこともできたりするため、仲間がいることは素敵なことだと改めて思いました。

2021.1

正木町

曲利地区

曲利屋卓球倶楽部

曲利公民館の前を通ると、何やら元気な声が聞こえてきます。訪問すると、高齢者の方が卓球を楽しんでいらっしゃいました。

ここでは、毎週月曜日と水曜日、9時～11時30分まで卓球を行っています。15年程前、健康づくりのために6名からスタートしたこの集まりは、口コミにより、現在は35名まで会員が増えました。

ゲームの相手を代えながら1ゲーム10分のラリーを楽しみます。中には、10ゲームを超える元気な方もいらっしゃいます。みんなで準備をして、卓球をして汗をかき、誰かとおしゃべりして笑い、みんなで片付けをして帰る…あっという間に時間が過ぎていきます。

「頭も目も足も使うから、良い運動になる」「みんなと笑いながら、楽しくやれるのがいいね」「家の近くに運動できる場があってうれしい」などといったお話を聞くことができました。



生活支援コーディネーター

同じ地域に住む人同士の元々のつながりによって、誘い誘われ、新たな人とのつながりが生まれています。定期的に仲間と顔を合わせることで、自然とお互いを気にかけて合う関係も築けているかもしれないと感じました。

2022.3

正木町
上大浦地区

ご近所の方と一緒に散歩

健康づくりを目的に、30年近く、散歩をしているみなさんがいます。

メンバーの順子さんの畑に集合して、寒い時期は16時頃から、暑い時期は17時頃から30分程度、5人くらいで散歩をしています。元々、りゅうみさんが一人で散歩をしていました。それが、自然にご近所の方が集まり、約4,000歩あるコースを、おしゃべりをしながら歩きます。



日曜日とお盆、年末年始、天気が良くない日はお休みです。

「一人ではできない。みんながいるからできる」「近所の方も、いつも歩いていることを知っている。声をかけてくれるよ」とお話されます。

今の時期は、行きは冷えていた体も、帰りはぽかぽかです。散歩が終われば、「じゃあ、またね」と言って解散です。

健康づくりはもちろんですが、「今日〇〇さん来るかな?」といった会話がお互いを気にかけて、見守りにもつながっています。また、体調やゴミの出し方、楽しい思い出話など…何気ないおしゃべりが、自然に情報交換になっています。とても素晴らしい地域のお宝です。



生活支援
コーディネーター

2022.5

足近町
市場地区

せっちゃん・みっちゃん・ふきちゃん

お互いの家が近い3人。60年近い付き合いです。以前は自宅近くの喫茶店に毎週行っていました。感染予防のため自粛中とのこと。現在は、「集まらない?」と誰かが声をかければ、徒歩や自転車で、みっちゃん家に集まり、10時~14時頃までお茶を飲みながらおしゃべりをしています。家族の話、足の具合や趣味の話など…



話題は尽きません。お互いの体調を思いやり、お茶を入れる、お茶を運ぶ役割ができています。また、話をする側、聞く側の役割も自然にできています。

「家族にも言えないことが、ここでは言える。聞いたことは絶対に他の人に言わないでくれる」「同じこと話してもちゃんと聞いてくれる」「大事なことを聞いても忘れてまう。でも、誰かが覚えとるで大丈夫」などとお話されます。楽しい時間はあっという間です。

とにかく仲良しで、笑顔が素敵な3人です。行くところがある、お茶飲み仲間がいる、そして、普段から気にかけていたり、助け合ったりする関係ができています…。住み慣れた地域で、いつまでも元気に暮らす秘訣を3人に教えていただきました。



生活支援
コーディネーター

2022.9

上中町

中地区

円空ゆるり

中観音堂・羽島円空資料館に、誰でも立ち寄れる「円空ゆるり」があります。ここは近隣に住む加藤みち子さんが、資料館の活性化のために、「自分のやりたいことをやろう」と思い、円空資料館の1階を借りて2年前にオープンしました。

加藤さんは、10時頃から15時頃まで、ほぼ毎日、円空ゆるりで過ごしています。現在は、天使の人形を製作中。この他にも、遊びに来た友だちやご近所の方、遠方から資料館を訪れた方とお茶を飲みながら楽しく世間話をしたり、即興で歌を歌ったりして、のんびりゆったり過ごしています。

みんなで楽しいことをやろうと思い、円空市場（フリーマーケット）や観音参りなども企画・実行しています。



▲玄関前で涼みながら過ごすことも



生活支援
コーディネーター

手芸の材料は、端切れなどです。観音参りで使う着物は着なくなった着物をいただいたものです。お姑さんから教わった「物を大切にすること」を大事に受け継ぎ、形となって円空ゆるりに活かされています。

また、円空ゆるりは、たくさんの人との出会いがある場所です。資料館に来た方が、後日、円空市場にも来て、そこで出会った人とおしゃべりをする…新しい人と人のつながりが生まれる素敵な場所です。

2022.9

竹鼻町

パッチワークたんぽぽ

毎月第2・4金曜日の13時30分から15時30分まで、竹鼻コミュニティセンターで活動しています。

平成11年に竹鼻公民館で行われた「パッチワーク講座」の参加者がサークルを立ち上げました。現在の会員は10名です。

各自が自分のペースで作りたい物を作り、縫い方などで分からないところがあれば、先輩に聞いたり、会員同士で教え合ったりしています。

「みんなの作品を見たり、縫い方を教えてもらったりして、おしゃべりで1時間過ぎてしまうこともある」「みなさん良い方で、楽しい」などとお話されます。

現在は、来年の羽島市歴史民俗資料館での展示会に向けて、作品作りに励んでいます。



生活支援
コーディネーター

みなさんがパッチワークの話や健康の話など、ワイワイおしゃべりをしている様子がとても印象的でした。また、パッチワークは、頭と指先を動かす作業になるため、介護予防にもつながると思いました。

好きなことや、やりたいことを誰かと一緒に楽しく、でも自分のペースで行うことが、継続するコツであり、元気に暮らす秘訣になると感じさせていただきました。



パッチワーク歴20年の
会員さんが作製したタペストリー

2023.1

正木町
須賀地区

SUKAボギーズ

毎週日曜日と水曜日、9時から11時までふれあいの里広場パターゴルフ場で活動します。

令和2年5月にスタートし、須賀地区にお住まいの方を対象とした説明会、回覧板や口コミでの呼びかけにより、現在メンバーは15人。毎回10人程度の参加があり、くじ引きでチームを作り、1コース18ホールを2周ります。

「3,000歩くらい歩く。いい運動になるよ」「毎週日曜日がほんとに楽しみ!!みんなと話して笑って、心が豊かになる」

「運動不足を心配して誘ってもらった。最初は9ホールまでしか回れなかったけど、今では2周りできるようになった」など、みなさん笑顔でお話されます。

夢は、将来、大会ができるくらいの人数までにメンバーが増えることです。

須賀地区から会場まで距離がありますが、乗り合わせて来られている方もいます。意識しないで行われていると思いますが、素敵な支え合いです。また、活動日以外に、ひとり暮らしの方に「元気か?」と電話されている方もいます。これも素敵な見守りです。

住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らすつながりや支え合いが、SUKAボギーズの活動を通してたくさん生まれています。



生活支援
コーディネーター



▲声援と歓声で盛り上がっています

2023.3

正木町
大浦地区

まさき青空市

毎月第1日曜日の8時30分から、岐阜県立羽島特別支援学校の正面玄関付近で「まさき青空市」を開催しています。10台程の軽トラなどが並び、荷台で野菜や果物、花、お菓子、雑貨、羽島特別支援学校作業製品など、様々な商品を販売しています。

代表の味岡巖さんは「人と人とのコミュニケーションが減ってきた。まさき青空市が昔のような井戸端会議の場になれば良いと思っている」とお話しされます。

開始時間には多くのお客さんが集まり、買い物だけでなく、おしゃべりも楽しまれています。ご近所さん同士、おしゃべりをしながら会場まで徒歩や自転車に来る方もいます。また、定期的に民生委員さんなどが訪問をしているひとり暮らしの高齢者の方も来てくださるため、健康づくりや見守りの場にもつながっています。



絵画が趣味の野口恵子さんが、「まさき青空市専用農園」の看板を作製されました。また、自身の畑で作った野菜を販売。「新しい知り合いができた。毎月楽しい」とお話しされます。



花屋の店主である河合さん(写真左)。そのお店のお客さんである太田さん(写真右)は「お世話になっているから、お手伝いさせてもらっている」とお話しされます。



2023. 5

足近町
直道地区

日課の散歩

10年程前からほぼ毎日、健康づくりを目的に、近所に住む方と一緒に散歩をしている方がいます。約40分の散歩コースは、話が弾み、あっという間です。「おしゃべりをしてストレス発散もできる。私たちと同じように散歩をしている方に会うと、立ち止まっておしゃべりをするのもあって、最新の地域の情報を知ることができる。また、分からないことがあれば尋ねたり、ちょっとした困りごとがあれば相談したりすることもできる大切な時間」とお話しされます。

一緒に歩く仲間や散歩を通して親しくなった方とは、時々、お互いに野菜のおすそ分けをしたり、花見やお茶、買い物に出かけたりしています。もう今から、秋の味覚を買いに行こうと具体的に約束もしています。

ご自身が体調不良で半年以上散歩ができず閉じこもりがちになっていた時には、こうしたみなさんが心配して、必要なところに車で連れて行ってくれたり、荷物運びやごみ捨て、町内の配り物の配付など、たくさん助けてくださったりしたとのこと。これらの関係は現在も続いており、散歩している時には「調子はどう？」と声をかけてくださることがあるそうです。



生活支援コーディネーター

「ひとりで暮らしていてさみしくない？と聞かれることがあるが、話し相手がいる、支えてもらえる方が身近にいるから、そう思ったことはない」とお話しされます。散歩を通してできたご近所の方との関係が、「暮らしやすい」と思えることにつながっていて、感銘を受けました。



2023. 7

竹鼻町
大仏地区

おしゃれな4人組

同じ老人クラブで活動するおしゃれな仲良し4人組がいます。毎月1日の朝に行われる定例活動の後、徒歩で喫茶店に行きおしゃべりすることが恒例になっています。「活動の後の喫茶店が楽しみ」とみなさん。お話が尽きず、いつもいつもあっという間にお昼になってしまうそうです。

ひとり暮らしの方は「誰とも話さない日は、なんとなく不安になる。そんな時は3人の誰かに電話して、おしゃべりをしている。気持ちが落ち着くから」と話されます。「困ったことがあれば相談してね」といつも声をかけてくれる。この3人が近くにいてくれるので、ひとりでも安心してここで暮らすことができる」ともお話されました。



生活支援
コーディネーター

一緒に老人クラブで活動する前は、4人は同じ地域に住んでいたものの挨拶をする程度の関係の方もいたそうです。老人クラブの活動をきっかけに交流を深め、普段でも気かけ合ったり、支え合ったりする関係になりました。「おしゃべり」が心身の支えにもなっていることがありありと感じられる素敵でおしゃれな「4人組」ですね。



▲「花づくりが4人をつないだね」

2023. 9

上中町

長間北地区

仲良し会

町内にあった婦人会の活動が廃止になりましたが、「地域での集まりを続けてほしい」との声があり、平成5年頃から「仲良し会」という名前で活動しています。当初から参加している方、母親から受け継いで参加している方など、メンバーは現在18名。

仲良し会では、2ヶ月に1回、近所にある喫茶店に集まっています。参加は自由ですが、行けば知らない情報をたくさん聞くことができるため、地域のことを知るためにも大切な集まりになっています。

喫茶店でのおしゃべりでは、「電話をしても出なかったから、心配になって自転車で様子を見に行った」「わざわざ来てくれてびっくりした」という会話も聞こえてきます。元々、近所同士などで知っている仲ではありますが、この活動を通して、さらに日頃からのつながりが強くなり、自然に気かけ合ったり、支え合ったりする関係になったそうです。他にも、使わなくなったお孫さんのおもちゃや学用品をゆずりあったりしています。



◀楽しみな年に
1回の旅行

地域での集まりを守り続けてこられたことが素晴らしいです。

代替わりをされても、住民同士のつながりは変わらず、困ったことがあれば、すぐに助けてもらえる関係を感じ取ることができました。



生活支援
コーディネーター

2023. 11

正木町

南及地区

カラオケで心も体も健康に

南及老人クラブの有志の活動のひとつとして、10年前から、毎月2回カラオケをしています。

「皆さんが楽しんでいる様子を見ると、励みになる」と桐山会長さん。参加者の皆さんは、「行けばみんなに会える。歌も好きだから楽しい」「認知症予防のために参加している」とそれぞれの思いを語られます。そして、会長さんはじめ皆さんが、「お世話役の山田さんが、カラオケの準備をしてくださるから有難い」とお話しされます。

毎月2回の集まりは、地域の情報を共有する大切な場にもなっています。「〇〇さんの家に行ってきたよ。元気そうやったよ」と、高齢夫婦のみの世帯について情報を共有し合う女性2人。「近所で気になる人がいると、ほっとけないでね。相談するの」「気になるわという話を聞くと、様子を見に行ったり、地域包括支援センターに相談したりしているんやわ」とお話しされます。

また、「毎月2回の輪投げの後は△△の喫茶店に行くし、他にも決まった日時に□□の喫茶店に集まっている」「車に乗せてもらって喫茶店巡りや旅行に行っている」と話されるなど、この活動以外にも、日頃から、様々なところでつながっていらっしゃる方もいます。



▲最後の締めは、手作り太鼓による演奏に合わせ、みんなで踊ります♪

皆さんのお話を聞いて、「自分ができること」で、自分もまわりも楽しく過ごされている様子が伺えます。お互いを思い合う温かさを感じました。



生活支援
コーディネーター

2024.1

上中町
長間地区

上中ゲートボール(羽島上中チーム)

毎日、だいたい8時45分から11時まで、ゲートボールを楽しんでいます。
現在のメンバーは10名。上中町長間以外の地区から参加されている方もいます。



老人クラブで一緒に活動していたことから、お互いに知り合いではありますが、ゲートボールを通して、より強いつながりが生まれました。

毎朝のゲートボール以外にも、旅行や食事、地域のイベント、そして、社協上中支部が行うサロン「カフェ無優樹^{むゆうじゆ}」に参加され、仲良く交流しているそうです。

メンバーのみなさんから、「朝のリズムが整う」「医者要らず」という言葉が出るように、この活動は心身の健康作りになっています。平均年齢が83歳であるため、いつ何があるかわからないという不安もあるようですが、「家族の携帯電話の番号も教え合っているよ」と明るく話されています。

この羽島上中チームの活動は、住み慣れた地域で安心して暮らせるネットワークづくりの一助にもなっているようです。



私も一緒に参加しました。ゲートボールは「助け合いのゲーム」と言われるそうですが、みなさんの関係も同じだと感じました。



生活支援

コーディネーター

2024.3

桑原町

写真サロン



毎月第3木曜日の13時30分から集まり、写真について情報交換などを行っています。取材に伺った日は、桑原町で行われる文化祭に展示する写真の準備をしていました。写真を見せ合いながら、撮影時の思い出や写真の撮り方など、おしゃべりが弾み、あっという間に時間が過ぎていきます。

現在のメンバーは12名。平均年齢は80歳を超えています。仲が良く、活動日を待ちに待っている皆さん。「手術をして前のように動けんけど、この集まりが楽しいから行く」「入院していた。今日久しぶりに皆さんに会うことを楽し

みに参加した。気分転換になるね」などとお話されます。

最年長は一人暮らしの90歳代男性。春になると、毎日、近所に飛んでくるメジロを撮りに行きます。また仲間から、「もしもし、何しとる?」「野菜ある?持っていくよ」「写真撮りに行くけど、一緒にどう?」と電話がかかってくる。「趣味の写真と、気にかけてもらえる仲間がいるから元気に長生きできとる」とお話されます。

サロン活動の後は、行きつけの喫茶店に行き、もうひとしゃべり。皆さんにとって、ここでのおしゃべりも楽しみのひとつになっています。

メンバーの速水さんは、「あたたかい雰囲気、楽しく過ごす素敵な集いの場」とお話されます。孤立予防、閉じこもり予防、介護予防になり、さらに、写真を通して交流を深め、普段から気にかけて合ったり、支え合ったりする関係が築かれていると感じました。



生活支援

コーディネーター